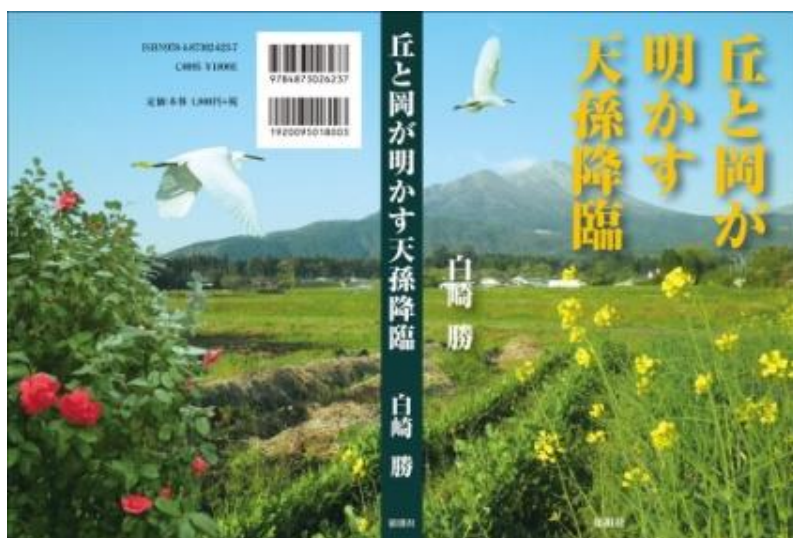


『丘と岡が明かす天孫降臨』

白崎 勝

邇邇藝命の天孫降臨の道が、丘と岡の組み合わせで、七年をかけた遠征であったことを、記録していました。薩摩半島の笠沙碕にいたる後も、大隅半島を経て南九州を、逆「の」の字型に高千穂峰を、周回していたのです。なぜ七年もの年月が、必要だったのでしょうか。旅の終点は八代海



の獅子島でした。悲しみの黒崎丘で記録しています。

天孫降臨を先導した、猿田彦命が現れた八街、天宇

受売命に猿田彦命を送らせた、邇邇藝命との別れの場所、夢の時間を終わらせた終焉の地などが皆、山の名に記録されていたのです。古代人の英知とロマンを知ります。

2016年出版・郁朋社 (1,800円税別)